事業計画書

目　次

（事業計画書）

１．平成 30 年度事業方針…… 1

２．事業の体系 …… 5

３．事業計画

（1）世田谷文化生活情報センター生活工房……14

（2）世田谷文化生活情報センター世田谷パブリックシアター…17

（3）世田谷文化生活情報センター音楽事業部……24

（4）世田谷美術館……26

（5）世田谷文学館……31

（6）財団共通……34

1．平成 30 年度事業方針

地域で進む少子・高齢化やグローバル化、SNSなど情報交換手法の進展やワーク・ライフ・バランスの推進など、文化・芸術を取り巻く状況は大きく変わり、更に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会の開催と、文化・芸術が持つ力を発揮し、その魅力を発信していくことへの期待が高まりつつあります。また、そのために、文化・芸術の事業展開には今まで以上に大きな関心が寄せられているといえます。

一方、財団は、文化・芸術活動を幅広く実施するとともに、区民の多様な文化創造活動や市民活動などを支援することにより、地域文化の振興と心豊かな地域社会の形成に寄与することを目的として設立されており、公益財団法人として、様々に転ずる社会変化には柔軟に対応し、ニーズに応えていくことが強く求められます。

現在、世田谷区は、第3期文化・芸術振興計画を検討しており、平成30年度から4年度の期間でスタートします。この計画は、社会情勢の変化に対応する取組を進めるものとしており、財団は、世田谷区の外郭団体として、生活デザイン、演劇、音楽、美術、文学の 5 つの部門で蓄積してきた事業展開のノウハウを最大限に活かし、区と連携・協働して推進役を担い、財団目的を実現して参ります。

また、推進役としての責務を果たすためには、持続可能な財団運営を実現していくことが必須です。この間、財団は、改革に取り組み、更に推進すべく、昨年12月に「世田谷パブリックシアター 劇場経営に関する基本方針」を、また、本年1月には「公益財団法人せたがや文化財団人材活用計画」を策定しました。今後、今迄の取組を踏まえつつ、この方針や計画に沿って着実に取り組みます。併せて、その時々の社会経済状況に即応した財務に努め、これらの取組により、組織力を高めて参ります。

≪世田谷文化生活情報センター≫

世田谷文化生活情報センターは、開設以来一貫して世田谷区民の文化向上に寄与することを目的として、生活デザインを提案する「生活工房」、良質で安価な現代演劇とダンス公演を行う「パブリックシアター」、親しみやすく良質な音楽を提供する「音楽事業部」の三本の柱で、創造的な文化施設として事業を展開しています。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、日本文化を再認識し継承、発展させていくような事業や国際文化交流を意識した事業等を展開してまいります。

・生活工房

生活工房は「暮らしのデザイン」をテーマにして、幼児から大人までの幅広い世代が、暮らしに豊かさを感じられるデザインを共に楽しみ、考え、学び、つくる機会として「展覧会」「ワークショップ、セミナー」「地域と市民活動支援」の事業を展開します。

展覧会「祝いの衣服展」では、日本の伝統文化の再認識と共に、現代におけるデザイン、造形表現にも焦点をあてることで、新しい時代に向けたライフスタイルの在り方について考察します。また、暮らしの技法や儀礼などの貴重な記録映像をもとに、先人たちの知恵に

学ぶ展覧会「映像のフィールドワーク展」、世界各地の手しごとに焦点をあてる「クライム・エブリ・マウンテン」のシリーズや「メキシコの玩具展」では多様な価値観やモノと人の関わりなどから、共感の輪を広げ、異文化理解を深めます。
また、「ワークショップ、セミナー」では、毎年好評を得ている「子どもワークショップ」などで、より多くの子どもたちが参加できるよう、事業手法などを見直しながら事業を行っていきます。
区民参加型で活動団体と取り組む事業にも力を入れます。「穴アーカイブ」では、好評の8ミリフィルムの生活記録を掘り起す活動を継続します。また、30回目を迎える手づくりアートの“のみの市”「世田谷アートフリマ」、市民活動グループの活動を支える「市民活動支援コーナーの運営」など、地域の活動と交流を支援し、豊かな地域づくりに貢献していきます。

・世田谷パブリックシアター

市民が優れた演劇、舞踊、音楽等の文化芸術を享受できる機会や、自らが文化芸術活動を実践できる場を提供するとともに、地域交流活動、人材養成・教育普及活動、国際交流活動を促進することで、豊かな地域社会の形成に資することを基本方針とします。

公演事業として、優れた舞台作品の創造発信。国内交流・国際交流のネットワークの構築。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、日本文化を再認識し、国際文化交流を意識した事業の展開。

普及啓発事業として、文化芸術の体験、支援、教育および発表機会の提供。地域・行政との連携および協働。地域交流の活性化。

人材養成事業として、専門家、技術者、アーティストなど、次代を担う人材の育成。観客、劇場支援者の開拓、育成などを進めてまいります。

鑑賞機会の整備としては、各種割引制度の設定、託児サービスや障害者へのための車椅子スペースの確保、舞台説明会や、音声ガイドなど様々な来館者サポートを充実させます。

また、広報宣伝活動を通じて、区内外に情報を広く周知し、地域の劇場／創造発信型劇場としての劇場の存在意義を高めるブランディング活動とともに、これら事業の充実した達成に向けて、国や公共機関、及び民間企業等の助成や協賛の獲得を積極的に働きかけるよう努力を続けてまいります。

そして、今後も、舞台芸術が持つ力と、劇場という場が備えている力を活用して、誰もが等しく芸術に親しみ、共有できる事業の展開を目指してまいります。

・音楽事業部

「もっと近くに」。ホールを持っていない音楽事業部は、そのフットワークの軽さを活かして、区民のみなさんに音楽をより身近に楽しんでいただける事業を進めます。

完売が続く好評の「室内楽シリーズ」は、西洋のクラシック音楽の基本である弦楽四重奏に加え、ユネスコ無形文化遺産である日本の音楽・雅楽を取り上げます。演奏会に縁

遠い人たちに向けた「午後の音楽会」は、イタリアからクラリネット奏者を迎え、シアタートラムで開催。いずれも、聴き手にまっすぐ届く音楽です。

音楽は人々の距離を近づけます。支援する3つの区民団体のうち、世田谷フィルと区民合唱団が共演する「名曲コンサート」、より広い層に働きかけていくために他団体と共に取り組む「連携コンサート」、池辺晋一郎音楽監督が違うフィールドで活躍するゲストと語りながら進める「異分野とのコラボレーション」。つなげる役割を果たす演奏会を展開します。

また、ホールを出て届ける「せたがやまちかど・まちなかコンサート」や区内の音楽関係者が知恵を絞って企画する「せたがや音楽プロジェクト」は、地域と音楽を近づけます。

聴くだけでなく、演奏を楽しみたい人たちには、人気ワークショップ企画の「Let's Sing ゴスペル！」や「せたがや音楽研究所」、コンテスト形式で行う「せたがやバンドバトル」があります。区民のみなさんにステージを用意して、客席のみなさんと音楽を共有していただきます。中でも、宮川彬良スペシャル・プロデューサーと共に音楽を楽しく学ぶ「せたがや音楽研究所」は、学校にも展開していく予定です。

そして、要である「せたがやジュニアオーケストラ」。親しんでいただくための「オータムコンサート」、成果を問う「定期演奏会」のほかに、今年度は、内外の他のまちのジュニアたちとの交流も計画。音楽事業部の親善大使役を担って、人々と音楽を近づけていきます。

≪世田谷美術館≫

企画展では「ボストン美術館　パリジェンヌ展」に続き、「人間・高山辰雄展」「濱田庄司展」「向井潤吉　人物交流記展」「ブルーノ・ムナーリ展」「田沼武能写真展」を予定。在住作家や暮らし、東京をテーマとした構成になっており、いずれも当館ならではの内容です。作品の収集・保管については、平素の調査研究を土台とし、収集方針にそった事業を展開し、またミュージアム コレクションでは、「小掘四郎と村井正誠展」「東京スケイプ展」「アフリカ現代美術コレクションのすべて展」と、当館の収蔵作品の特色を際立たせる展覧会を計画しています。教育普及事業では小中学生を対象とする鑑賞教室をはじめ、地域の大学とのコラボレイション、インターン実習など学校連携の拡充をはかり、当館の支援者であるボランティアへのサポートの充実もはかります。障害者の美術鑑賞に関する調査、研究にも取り組みます。そして2020年のオリンピック、パラリンピックに備え「来館者も、迎える人も」「コレクションからの発信」「快適な鑑賞空間」「情報とアクセスの充実」「ホームページの活用と多言語化」をキーワードに、多角的に当館をアピールし、内外からの来館者を迎える準備を進めます。

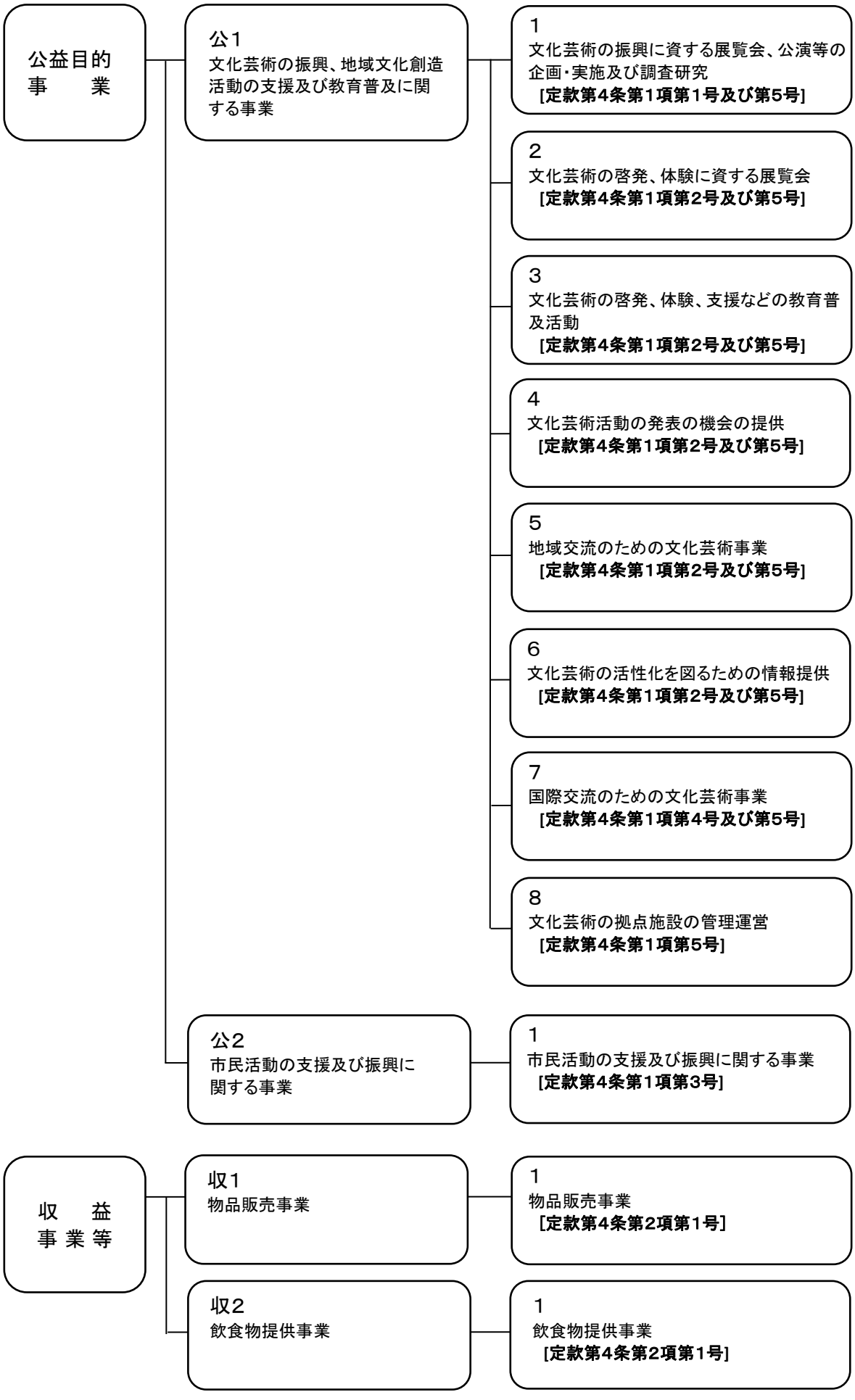
≪世田谷文学館≫

開館以来の事業方針「ジャンルの枠にとらわれない文学館」「幅広い層に親しまれる文学館」「生き生きと活動する文学館」に即し、多様化する利用者ニーズに応えるべく事業を多角的に展開いたします。

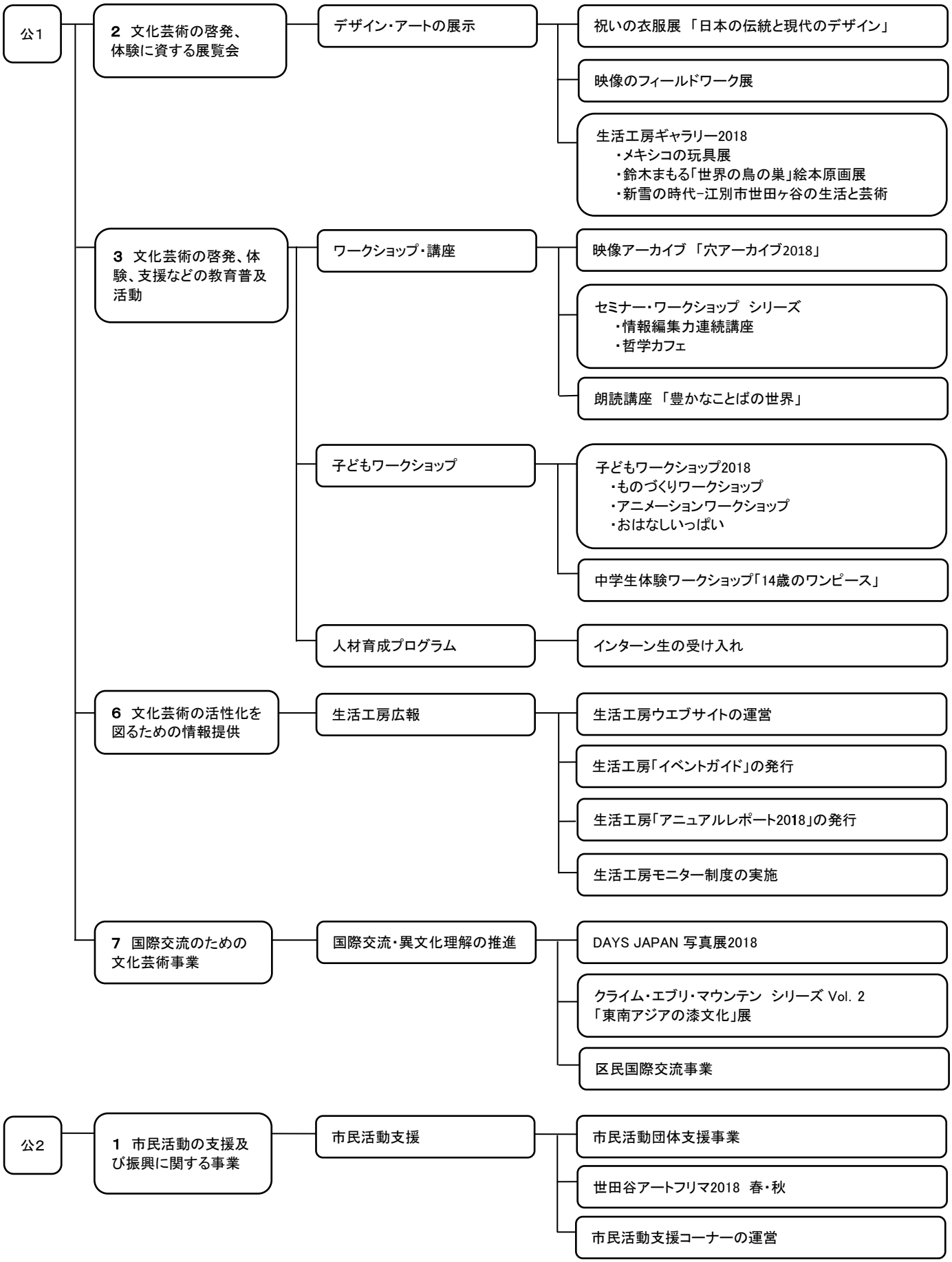
企画展は、先駆性とポピュラリティを同時に獲得してきた4人の作家を取りあげます。林芙美子の詩人としての側面に着目する「林芙美子　貧乏コンチクショウ」、日本の音楽史においてパッケージデザインの観点から革新的なプロダクトを生み出してきたアート・ディレクター「信藤三雄　レトロスペクティブ」展、エンターテインメントと純文学の垣根を自在に越境し、80歳を超えてなお旺盛に創作を続ける「筒井康隆」展、緻密なタッチと可愛らしさ、そしてダークな世界観で現在女性たちから絶大な支持を集める画家で絵本作家の「ヒグチユウコ　Circus」展のラインナップをお届けいたします。

また、文学館内外でのワークショップや出張展示を行う地域連携事業「どこでも文学館」、未就学児を含め幅広い世代に向けて本との新たな出会いを提案するライブラリー「ほんとわ」の運営、収蔵コレクションの公開や紹介にも引き続き積極的に取り組みながら、地域に開かれた文化施設としての機能を一層高めてまいります。

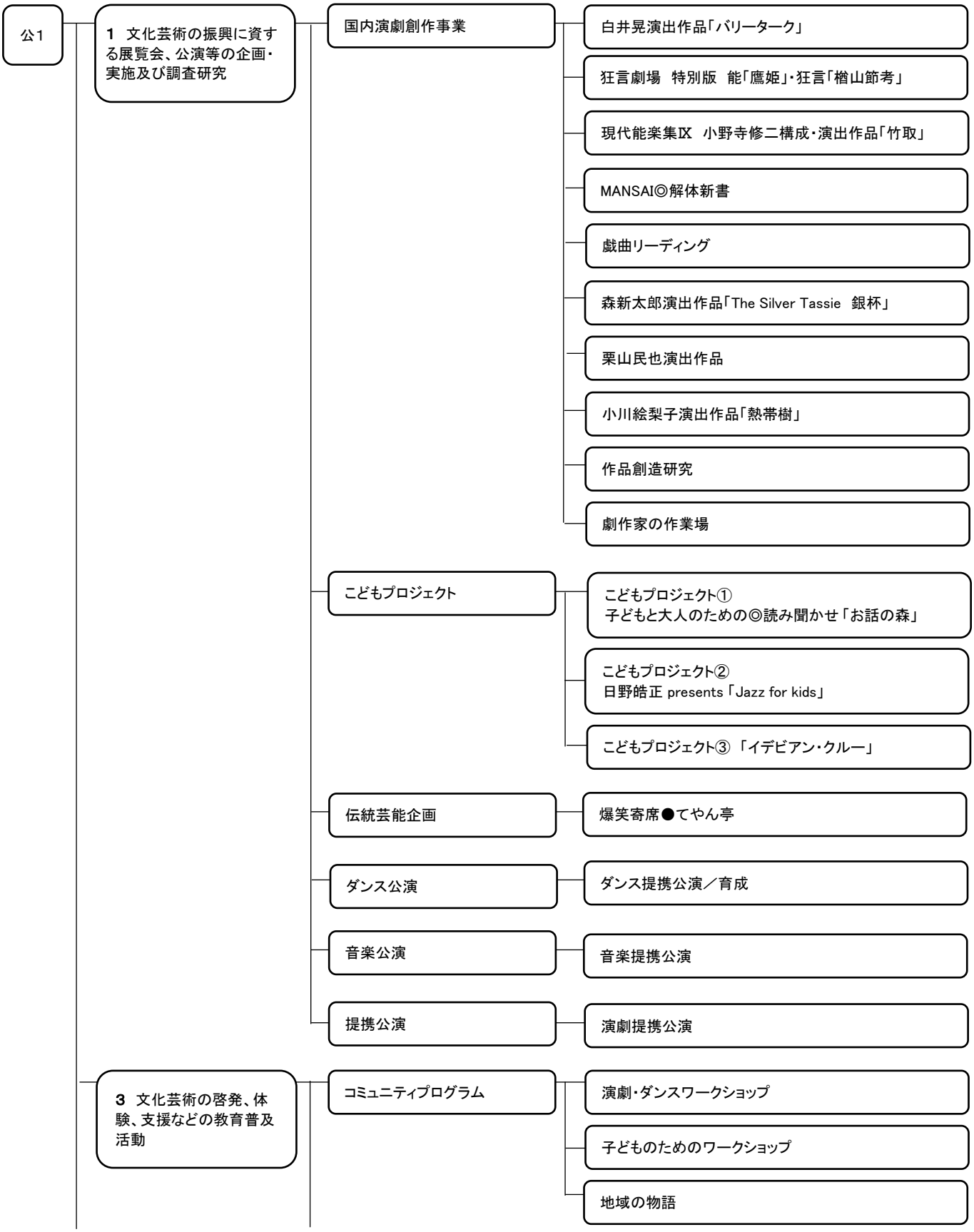
2 事業の体系

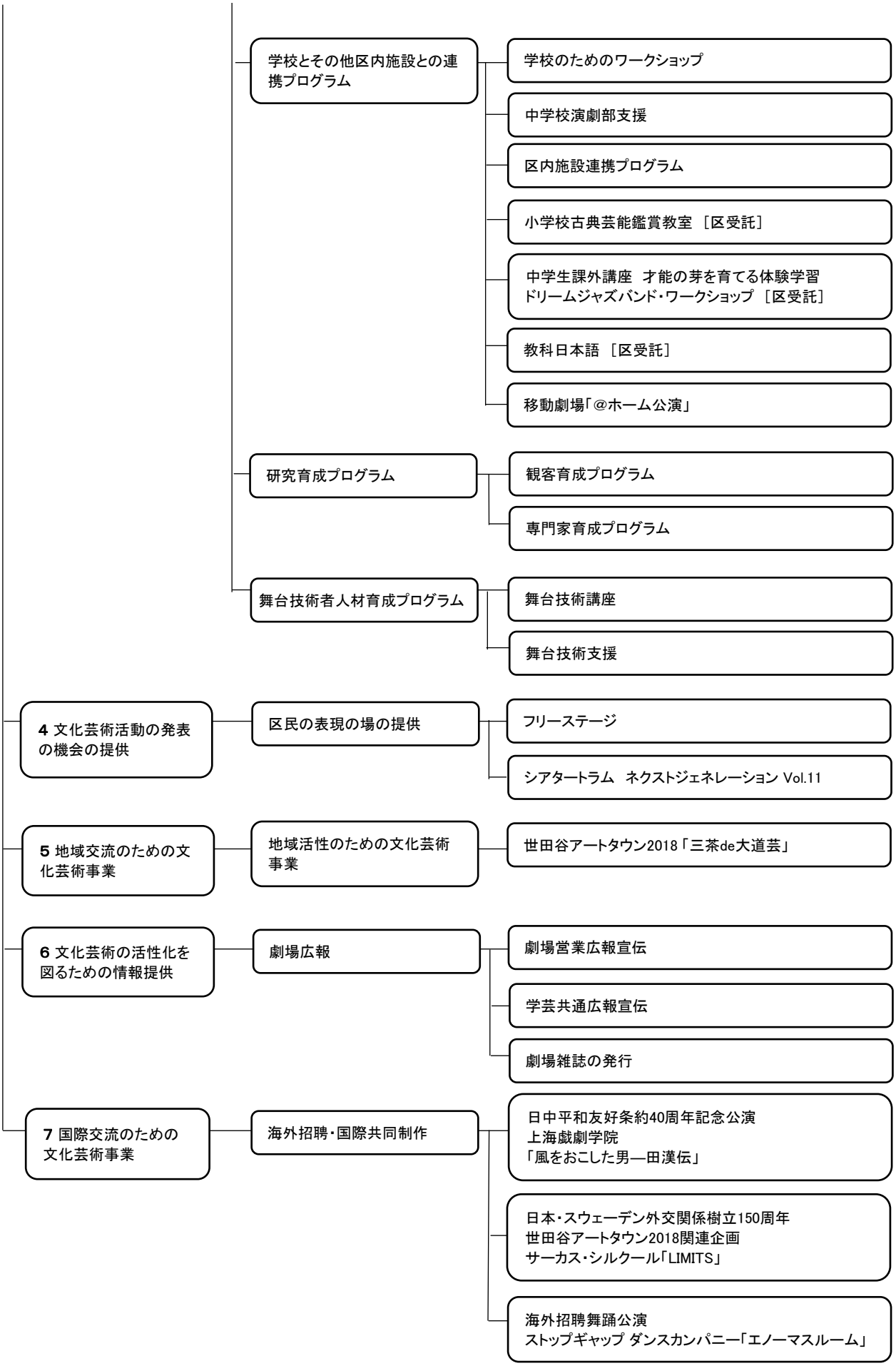

公益目的事業
公1
文化芸術の振興、地域文化創造活動の支援及び教育普及に関する事業
1
文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究
[定款第4条第1項第1号及び第5号]
2
文化芸術の啓発、体験に資する展覧会
[定款第4条第1項第2号及び第5号]
3
文化芸術の啓発、体験、支援などの教育普及活動
[定款第4条第1項第2号及び第5号]
4
文化芸術活動の発表の機会の提供
[定款第4条第1項第2号及び第5号]
5
地域交流のための文化芸術事業
[定款第4条第1項第2号及び第5号]
6
文化芸術の活性化を図るための情報提供
[定款第4条第1項第2号及び第5号]
7
国際交流のための文化芸術事業
[定款第4条第1項第4号及び第5号]
8
文化芸術の拠点施設の管理運営
[定款第4条第1項第5号]
公2
市民活動の支援及び振興に関する事業
1
市民活動の支援及び振興に関する事業
[定款第4条第1項第3号]
収益事業等
収1
物品販売事業
1
物品販売事業
[定款第4条第2項第1号]
収2
飲食物提供事業
1
飲食物提供事業
[定款第4条第2項第1号]

事業の体系　世田谷文化生活情報センター　生活工房

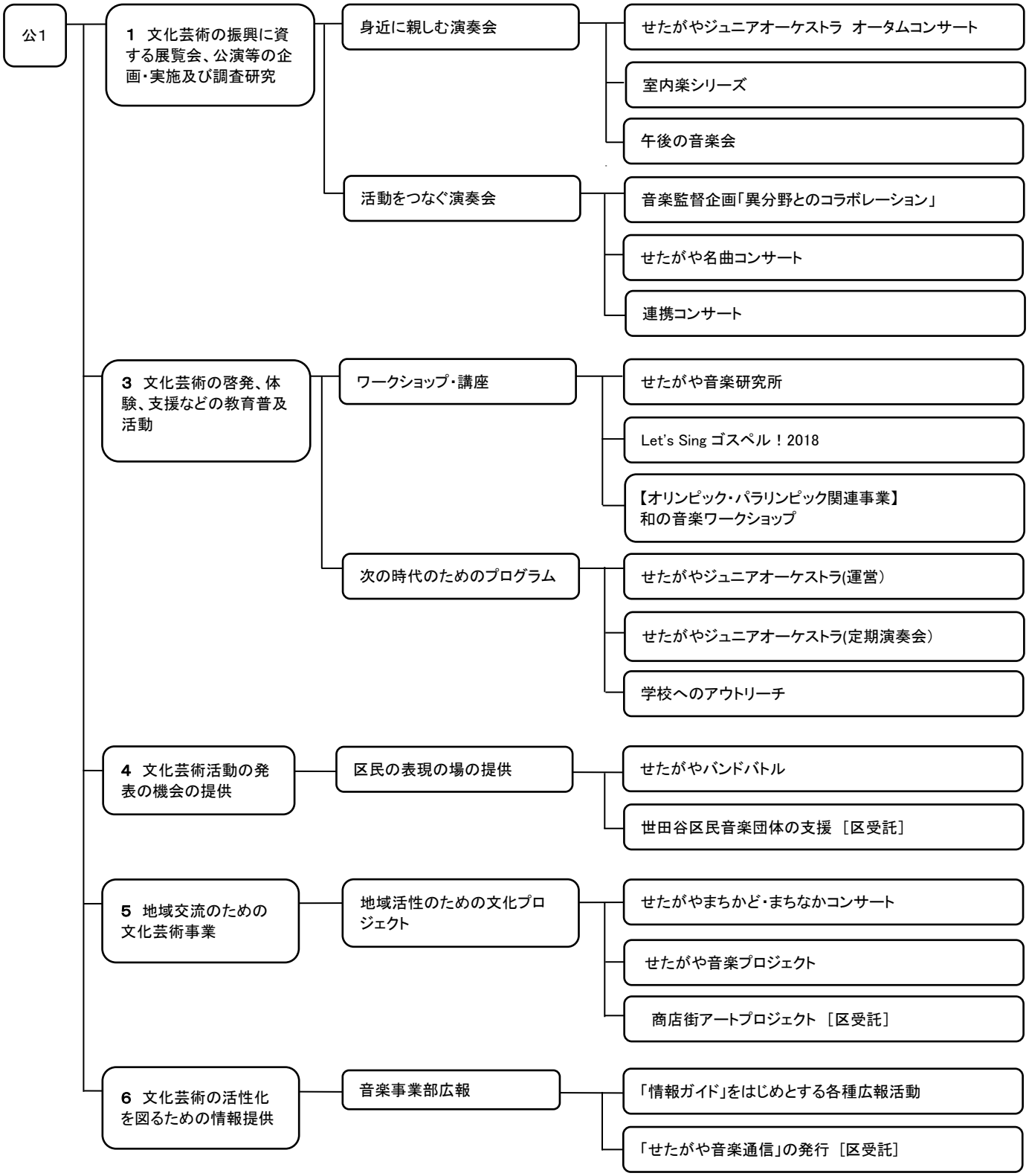


事業の体系　世田谷文化生活情報センター　世田谷パブリックシアター

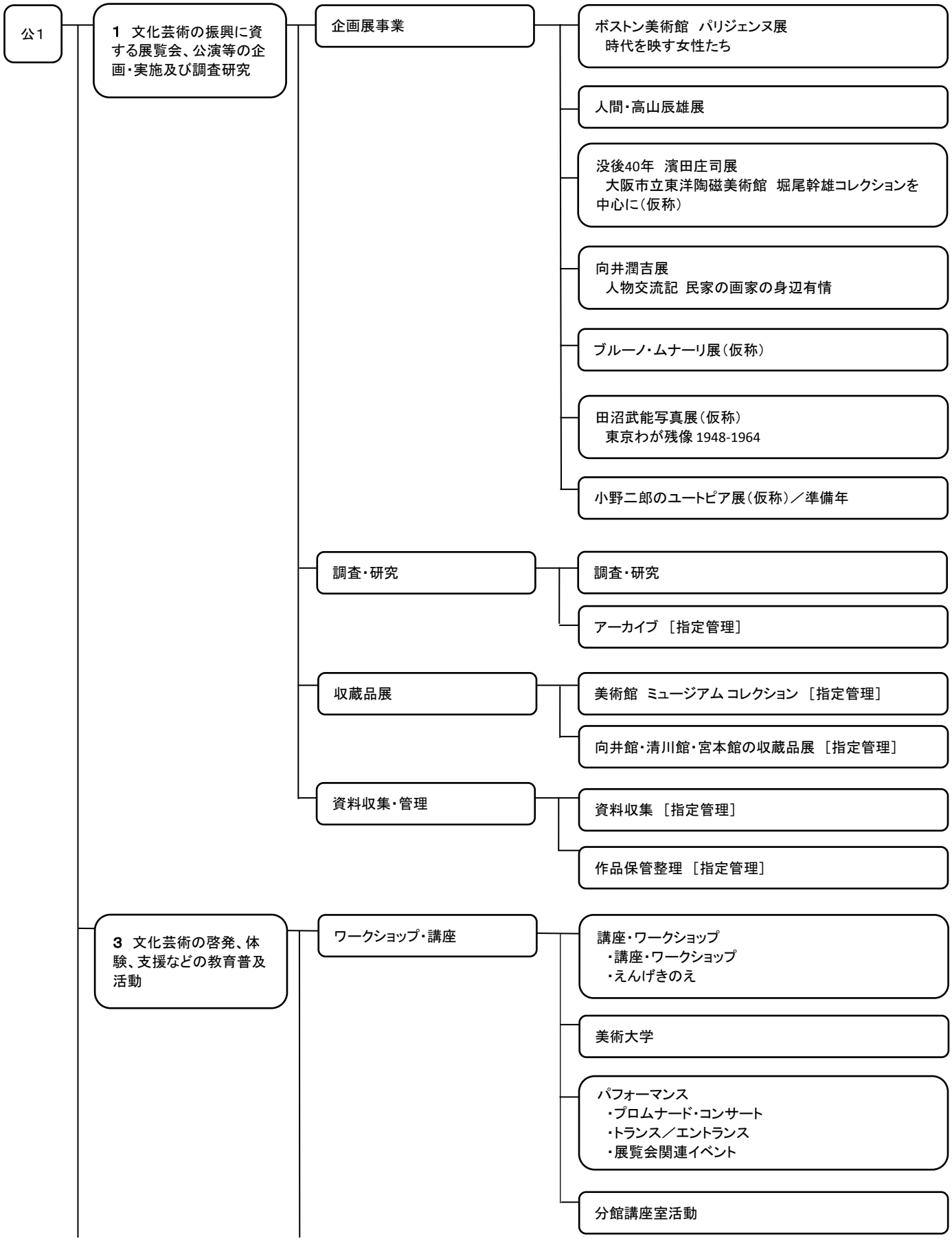


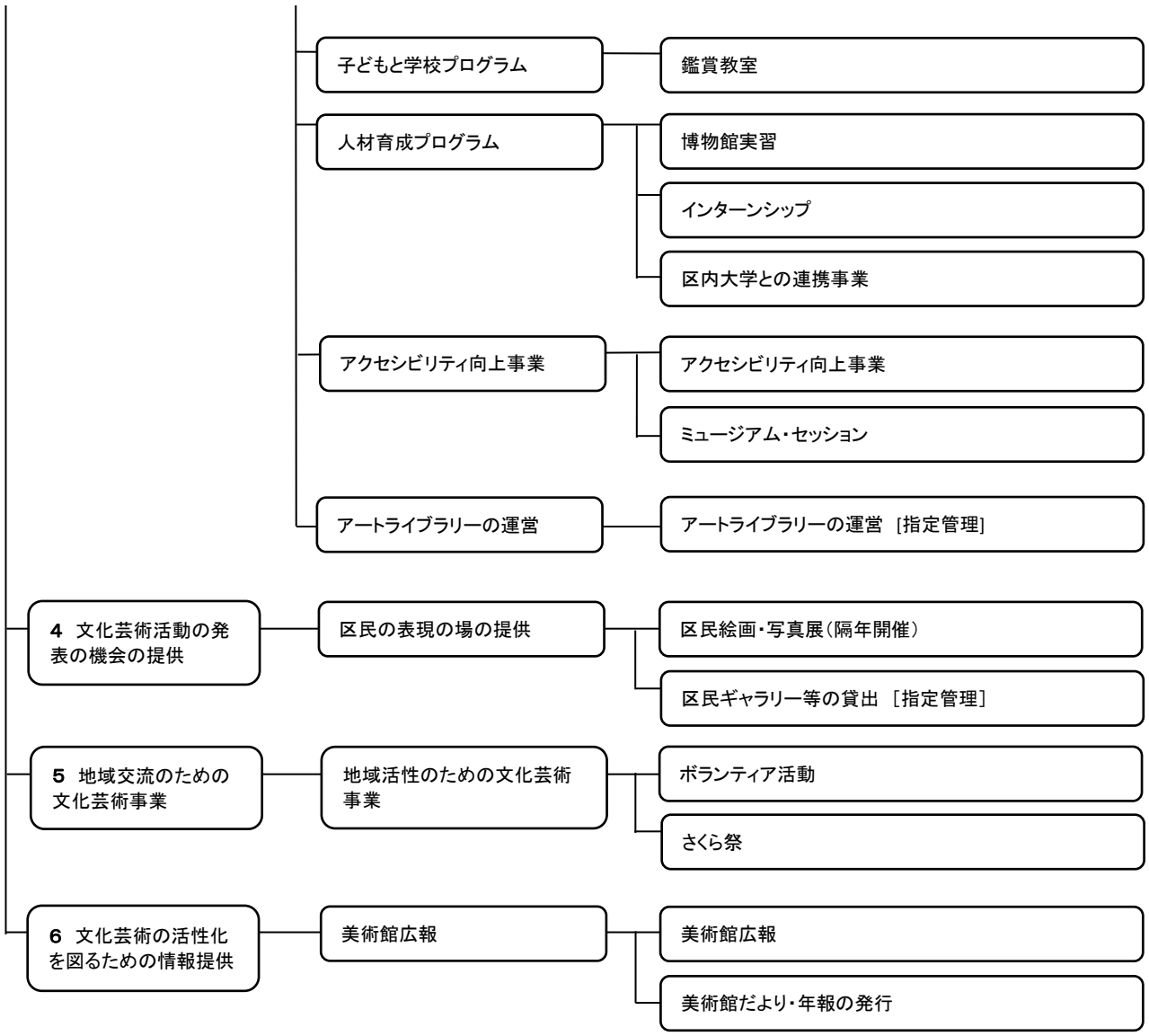

学校とその他区内施設との連携プログラム
学校のためのワークショップ
中学校演劇部支援
区内施設連携プログラム
小学校古典芸能鑑賞教室 ［区受託］
中学生課外講座 才能の芽を育てる体験学習
ドリームジャズバンド・ワークショップ ［区受託］
教科日本語 ［区受託］
移動劇場「@ホーム公演」
研究育成プログラム
観客育成プログラム
専門家育成プログラム
舞台技術者人材育成プログラム
舞台技術講座
舞台技術支援
4 文化芸術活動の発表の機会の提供
区民の表現の場の提供
フリーステージ
シアタートラム ネクストジェネレーション Vol.11
5 地域交流のための文化芸術事業
地域活性のための文化芸術事業
世田谷アートタウン2018「三茶de大道芸」
6 文化芸術の活性化を図るための情報提供
劇場広報
劇場営業広報宣伝
学芸共通広報宣伝
劇場雑誌の発行
7 国際交流のための文化芸術事業
海外招聘・国際共同制作
日中平和友好条約40周年記念公演
上海戯劇学院
「風をおこした男―田漢伝」
日本・スウェーデン外交関係樹立150周年
世田谷アートタウン2018関連企画
サーカス・シルクール「LIMITS」
海外招聘舞踊公演
ストップギャップ ダンスカンパニー「エノーマスルーム」

事業の体系　世田谷文化生活情報センター　音楽事業部

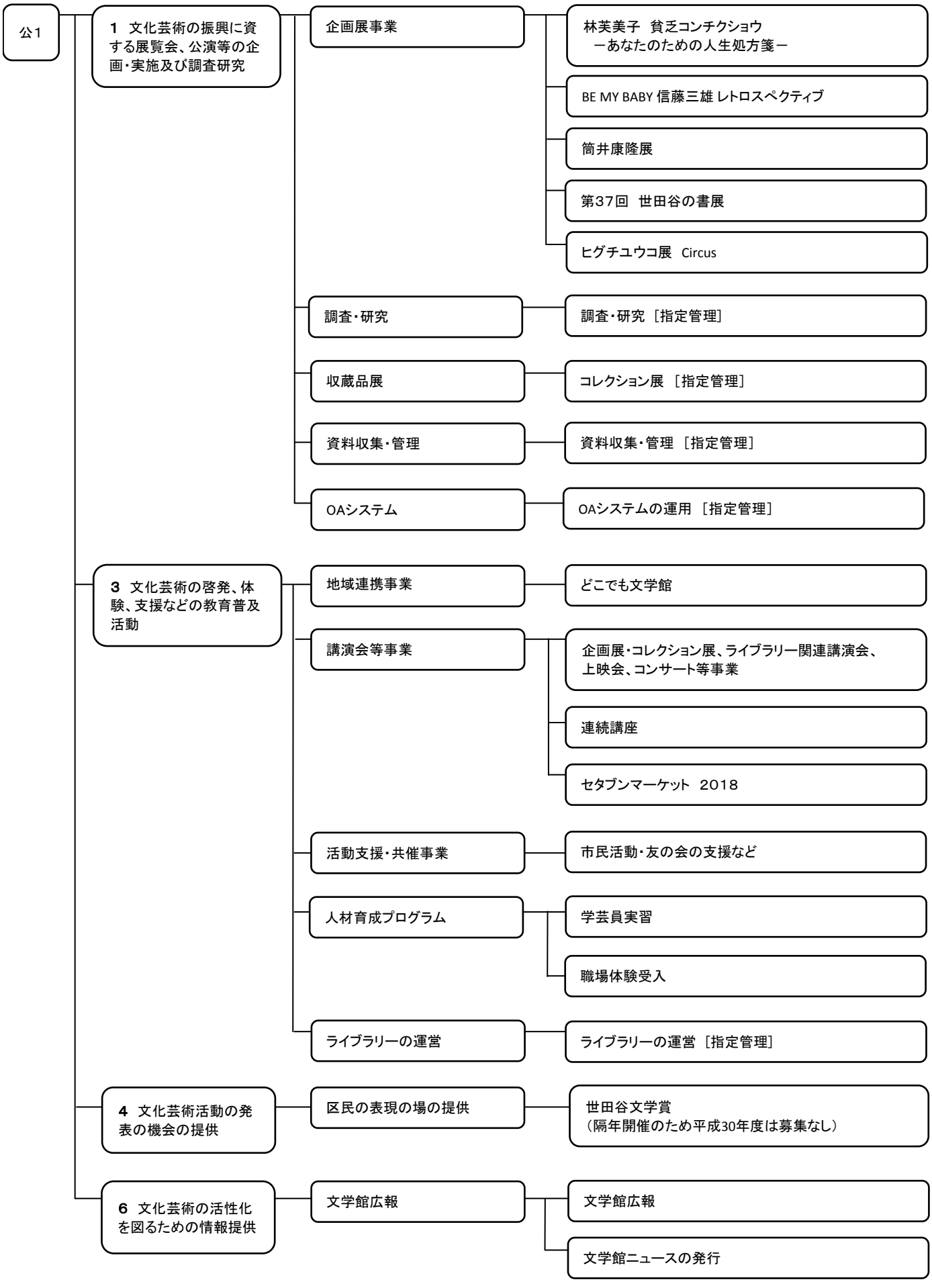


事業の体系　世田谷美術館

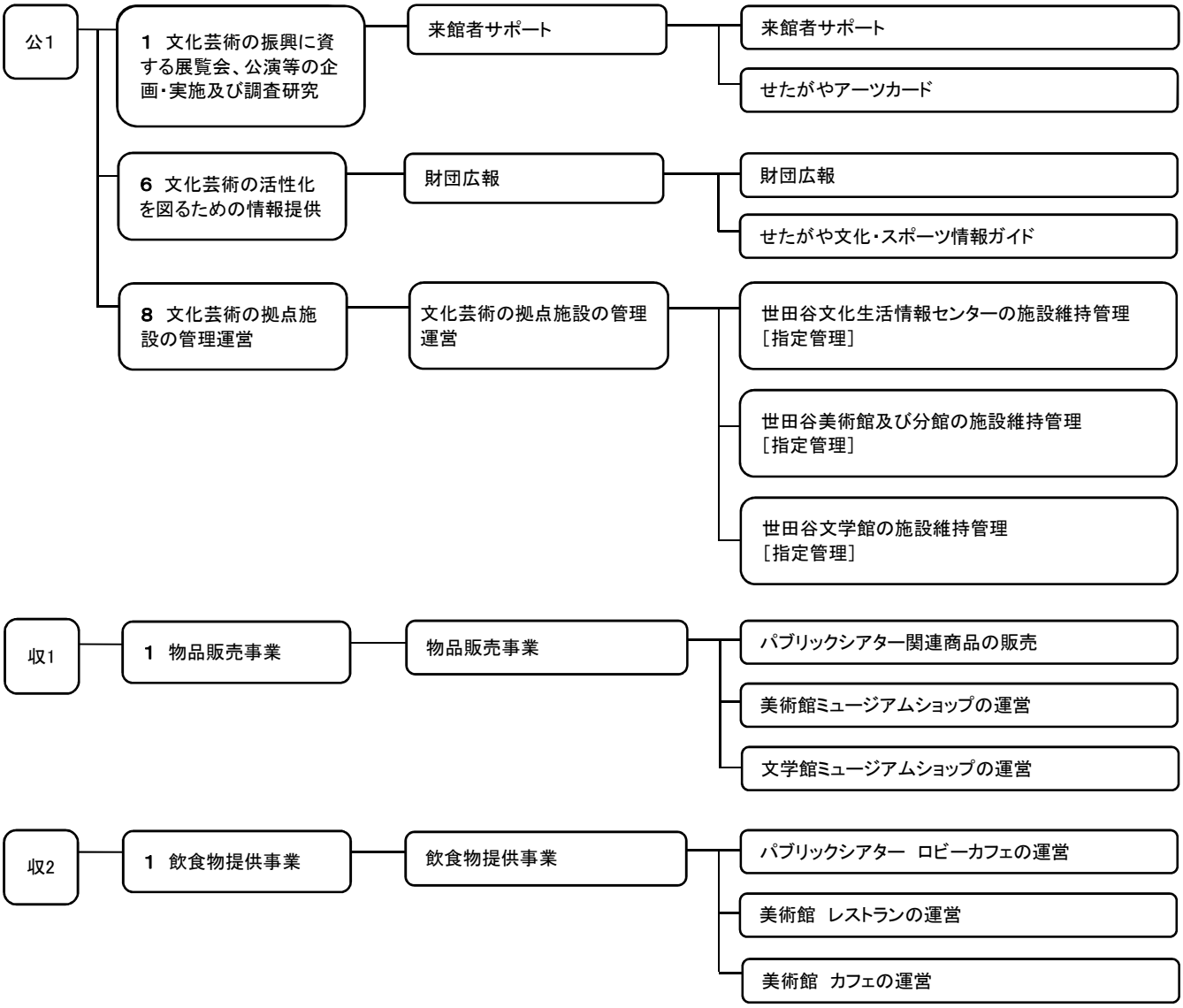



子どもと学校プログラム
鑑賞教室
人材育成プログラム
博物館実習
インターンシップ
区内大学との連携事業
アクセシビリティ向上事業
アクセシビリティ向上事業
ミュージアム・セッション
アートライブラリーの運営
アートライブラリーの運営 [指定管理]
4 文化芸術活動の発表の機会の提供
区民の表現の場の提供
区民絵画・写真展（隔年開催）
区民ギャラリー等の貸出 ［指定管理］
5 地域交流のための文化芸術事業
地域活性のための文化芸術事業
ボランティア活動
さくら祭
6 文化芸術の活性化を図るための情報提供
美術館広報
美術館広報
美術館だより・年報の発行

事業の体系　世田谷文学館



事業の体系　財団共通


公1
1 文化芸術の振興に資する展覧会、公演等の企画・実施及び調査研究
来館者サポート
来館者サポート
せたがやアーツカード
6 文化芸術の活性化を図るための情報提供
財団広報
財団広報
せたがや文化・スポーツ情報ガイド
8 文化芸術の拠点施設の管理運営
文化芸術の拠点施設の管理運営
世田谷文化生活情報センターの施設維持管理［指定管理］
世田谷美術館及び分館の施設維持管理［指定管理］
世田谷文学館の施設維持管理［指定管理］
収1
1 物品販売事業
物品販売事業
パブリックシアター関連商品の販売
美術館ミュージアムショップの運営
文学館ミュージアムショップの運営
収2
1 飲食物提供事業
飲食物提供事業
パブリックシアター　ロビーカフェの運営
美術館　レストランの運営
美術館　カフェの運営

事業計画書

3 事業計画

（1）世田谷文化生活情報センター　生活工房

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
デザイン・アートの展示	祝いの衣服展「日本の伝統と現代のデザイン」	「祝いごと」の衣服や生活様式をテーマに、日本独自の技術と豊かさを受継する伝統文化と、現代のデザインや造形表現という双方の視点から考察する展覧会。	3,200人	12月～31年1月	生活工房ワークショップルーム、ギャラリー
	映像のフィールドワーク展	半世紀以上前の世界中の人々の営みが記録された「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」（EC）の映像群を空間的に展開し、先人たちの知恵を体感する展覧会。	3,200人	31年3月～4月	生活工房ワークショップルーム、ギャラリー
	生活工房ギャラリー2018	日常の暮らしの中から紡ぎ出したテーマで、国内外の工芸品からプロダクトデザインなど、幅広い世代が楽しめる様々な内容で展示事業を展開する。	―	―	―
	①メキシコの玩具展	多彩な表現を持つメキシコの玩具や、フォークアートなどのユーモアで魅力ある造形を通じて、モノと人との関わり、その間に生まれるあそびの原点を発見する展覧会。	4,000人	10月～11月	生活工房ギャラリー
	②鈴木まもる「世界の鳥の巣」絵本原画展	夏休みにあわせて、家族で楽しめる企画として絵本「世界の鳥の巣」の原画と、巣の実物とともに展示する。	4,000人	7月～8月	生活工房ギャラリー
	③新雪の時代−江別市世田ヶ谷の生活と芸術	北海道・江別市にある世田ヶ谷村での近代化の過程で生じた人の移動・暮らしの変遷を紹介するとともに、暮らしや文化の記録と保存に関しても考察する展覧会。	4,000人	31年1月～2月	生活工房ギャラリー
ワークショップ・講座	映像アーカイブ　「穴アーカイブ2018」	8ミリフィルムを区民より集めてデジタル化し、かつての暮らしぶりを振り返る機会や、それぞれの生き方の記録を映像表現とする機会を提供する。平成27年度より収集したフィルムの情報をまとめた冊子も作成する。	延100人	年間通じて随時活動	生活工房ワークショップルームほか
	セミナー・ワークショップ　シリーズ	連続セミナーやワークショップの形式で、様々な分野にわたる《情報》との向き合い方や暮らしの新しい見方などを考えていく機会を提供する。「情報編集力　連続講座」や「哲学カフェ」等を開催。	80人	6月ほか	生活工房ワークショップルームほか
	朗読講座「豊かなことばの世界」	文学作品の朗読を通じて「ことば」のもつ力や自分自身の表現力の向上、朗読活動の一助となる機会を提供することを目的とし、NHK放送研修センターとの提携により実施する。	240人	通年	セミナールーム

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
子どもワークショップ	こどもワークショップ2018	幼児から小学生を対象に、デザインやコミュニケーションの体験などを通して、創造性を育む機会を創出する。	—	—	—
	①②ものづくりワークショップ	身近な素材を使ったデザイン体験などモノづくりの原点に触れるワークショップ。 ①多くの子どもたちが気軽に参加できるもの、②人数を絞ってじっくり取り組むものの2企画を予定。	①150人 ②30人	8月	生活工房ワークショップルーム
	③アニメーションワークショップ	映画やゲームなどで身近なアニメーションの仕組みを紐解き、動画の制作、伝達のためのメカニズムなどを体験するコミュニケーション・ワークショップ。	30人	8月	生活工房ワークショップルームほか
	④おはなしいっぱい	幼児から大人まで楽しめる朗読、素話、パネルシアターなど、区内30団体をネットワークする「世田谷おはなしネットワーク」によるお話会。活動団体のネットワーク構築と活性化を支援する。	1,500人	8月	生活工房ワークショップルーム
	中学生体験ワークショップ2018 「14歳のワンピース」	多感な時期の中学生対象に、専門家の指導のもとで、デザインの実践的な体験ワークショップを通じて、モノづくりの本質に触れる機会を提供する。	延100人	7～8月	生活工房ワークショップルーム
人材育成プログラム	インターン生の受け入れ	昭和女子大学、産業能率大学などのインターン生を受け入れ、コミュニティと交流について事業の現場体験の場を提供する。(2回)	2人	8月	—
生活工房広報	生活工房ウエブサイトの運営	生活工房プログラムのスケジュール、詳細、募集、関連ブログなどを掲載し、情報を発信する。SNS (Twitter、 Facebook Page、Instagram)の活用と併せ、有効に活用する。	—	通年	—
	生活工房「イベントガイド」(事業季刊紙)の発行	生活工房プログラムの四半期毎のスケジュール、事業内容を紹介する冊子を発行する。(4回)	各10,000部	4月、7月、10月、31年1月	—
	生活工房「アニュアルレポート2018」の発行	年間のプログラムを記録した報告書。実施概要のほかに、講座の内容、展示の写真、出演者やデザイナーのコメントなどを掲載し、生活工房の活動を一層わかりやすく紹介する冊子を発行する。(1回)	1,500部	31年4月	—
	生活工房モニター制度の実施	アンケート調査より踏み込んだ内容で来館、プログラムに参加した方々の中から参加動機、参加後の暮らし方の変化などを調査する。また、平成25年度から始めた未来館者の調査を継続し、施設の活用、事業への参加などを積極的に区民に発信するための一助とする。	—	通年	—

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
国際交流・異文化理解の推進	DAYS JAPAN 写真展2018	フォトジャーナル「DAYS JAPAN」誌が実施する国際フォトジャーナリズム大賞に選定された写真作品の展覧会。「報道写真」という媒体を通じて、世界の様々な紛争、公害、人権問題などを取材しているジャーナリストたちからのメッセージを伝える機会を設ける。	1,500人	5月～6月	生活工房ワークショップルームほか
	クライム・エブリ・マウンテン シリーズ Vol.2　「東南アジアの漆文化」展	東南アジアの山岳地帯で作られている漆器について制作現場を取材し続けている写真家・井上耕一氏の写真とコレクションを展示し、現地の「漆のある暮らし」とともに紹介する。	3,000人	9月～10月	生活工房ギャラリー、ワークショップルームほか
	区民国際交流事業	区民国際交流事業「国際交流inせたがや」を開催し、海外派遣による地域リーダー育成事業の経験者を中心としたグループが区内外の大使館などとの交流を通じて培った文化交流を区民とともに楽しむ。	300人	31年2月	生活工房ワークショップルームほか
市民活動支援	市民活動団体支援事業	専門性を活かして活動している市民活動団体とともに、区内の市民活動団体の発展と活性化を図るための事業を展開する。 ① 市民活動相談事業の実施　②市民活動団体との共催によるセミナー　③市民活動団体支援講座（2講座）[区受託]	160人	通年	市民活動支援コーナー、セミナールームほか
	世田谷アートフリマ2018 （春・秋2回企画）	作り手と区民が交流する機会をフリーマーケット形式で開催し、区内のアーティストやクラフト作家の創作活動の発表、プレゼンテーション、販売、交流、さらに、造形作家による来場者向けのワークショップを開催する。	12,000人	4月、9月	生活工房ワークショップルーム、セミナールームほか
	市民活動支援コーナーの運営	区内を中心に活動する各種団体の活動場所等の提供と市民活動の活性化を図るための事業を行う。コーナーの運営は市民活動団体に委託する。	20,000人	通年	市民活動支援コーナー

（2）世田谷文化生活情報センター　世田谷パブリックシアター

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
国内演劇創作事業	KAAT神奈川芸術劇場共同制作 白井晃演出作品「バリータ－ク」	作:エンダ・ウォルシュ　翻訳 :小宮山智津子　演出 :白井 晃 創造発信型の公共劇場である世田谷パブリックシアターとKAAT神奈川芸術劇場とがタッグを組み白井晃演出によりアイルランド人劇作家エンダ・ウォルシュの戯曲を日本初演で上演する。(28回予定)	6,300人	5月～6月	シアタートラム
	狂言劇場　特別版 能「鷹姫」・狂言「楢山節考」	構成演出:野村萬斎　出演:野村万作・野村萬斎ほか 古典芸能に出自を持ちながら現代舞台芸術創作にも成果を挙げてきた野村萬斎芸術監督により、能「鷹姫」と狂言「楢山節考」を新演出で上演する。(各3回、合計6回予定)	3,000人	6月～7月	パブリックシアター
	現代能楽集Ⅸ 小野寺修二構成・演出作品「竹取」	芸術監督が提唱する、「レパートリーの創造」「地域性、同時代性、普遍性」「伝統芸能と現代演劇の融合」3つの柱をもとに企画制作する現代能楽集シリーズの第9作目。 日本最古の物語「竹取物語」をベースに、小野寺修二を演出に迎え、演劇とダンスを融合させた大胆で繊細な新たな舞台絵巻として再構築する。(14回予定)	2,500人	10月	シアタートラム
	MANSAI◎解体新書	芸術監督の野村萬斎が、毎回様々なジャンルからゲストを招き、実演、トークセッションなどを通して「表現の本質」を多角的な視点から解き明かす、人気シリーズの第28弾。	600人	10月	パブリックシアター
	戯曲リーディング	将来上演予定の作品や、実験的な作品のリーディングを通して、舞台芸術の面白さや演劇の可能性に出会う企画。観劇初心者にも気軽に劇場空間へ足を運んでもらえるよう観劇料金も可能な限り低価格に設定し、幅広い観客層に演劇の楽しさを体験してもらう。(3回予定)	450人	12月	シアタートラム
	森新太郎演出作品 「The Silver Tassie　銀杯」	作:ショーン・オケイシー　翻訳:フジノサツコ　演出:森新太郎 日本演劇界を代表する演出家の一人、森新太郎が、アイルランドの高名な劇作家ショーン・オケイシーの作品を演出する。第一次世界大戦前夜、アイルランドで銀杯(優勝カップ)を抱え将来を嘱望された一人の若いサッカー選手がいた。だが、のちに召集され戦地へ。彼の人生は一変する。一人の青年の挫折と再起を、スポーツを軸に描く、平和の尊さをえがく反戦ドラマともいえるような骨太な作品。 これぞ演劇というダイナミズムあふれる衝撃作の登場となる。テーマは重厚だが歌あり、笑いあり、涙ありの賑やかな、悲喜劇として構成する予定。出演陣は、幅広い観客層をとりこめるような、若手の人気キャストから、キャリアのある実力派俳優までをキャスティングする。(20回予定)	8,500人	11月	パブリックシアター

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
国内演劇創作事業	栗山民也演出作品	日本演劇界で数々の功績を生み出してきた演出家栗山民也により、海外の同時代戯曲をいち早く上演する。普遍的なテーマを扱う社会派戯曲を、実力あるキャスト・スタッフが集結し、日本初演する。(20回予定)	10,000人	31年2月	パブリックシアター
	小川絵梨子演出作品 「熱帯樹」	作:三島由紀夫　演出:小川絵梨子 莫大な財産を狙い、息子に夫を殺させることを企む妻と、その計画を知った娘が愛する兄に母を殺させようとする家族の悲劇の物語。『サド侯爵夫人』と並んで、ヨーロッパのフランス語圏で頻繁に上演されている人気の高い戯曲を、緻密なセリフ劇の立ち上げに定評のある小川が、初の三島由紀夫作品に挑むことで、新たな小川演出の魅力を見出し、新たな三島由紀夫作品の舞台の創出につなげていきたい。またフレッシュで実力も兼ね備えたキャスティングを目指し、三島作品に馴染みの薄い若年層も観客にとりこみ、日本の文学作品の継承の役割の側面も担いたい。(20回予定)	3,000人	31年 2月～3月	シアタートラム
	作品創造研究	オリジナルの新作戯曲や国内で未紹介の海外戯曲など、次年度以降の上演の可能性を探るため、調査研究の一環として海外戯曲の翻訳を行うほか、新事業のための演目研究を実施する。	―	通年	―
	劇作家〈実演家〉の作業場	劇作家及び実演家のための創作ワークショップ。新しい演劇作品を生み出すために、主題や手法を探ったり、俳優と共同作業しながら意欲的に試行錯誤や実験をする場を提供する。創作の進展に応じて、発表の場を設ける。	100人	通年	稽古場
こどもプロジェクト	こどもプロジェクト① 子どもとおとなのための◎読み聞かせ 「お話の森」	子供も大人も気軽に劇場へと足を運び、一緒にお話を楽しんでもらう企画。照明・音楽など趣向をこらした舞台の上で、アーティストが絵本を読み聞かせる。また、音楽やトークなどもまじえ、劇場での楽しい一日を演出する。(4～5回予定)	1,010人	8月	シアタートラム
	こどもプロジェクト② 「日野皓正　presents ″Jazz for Kids″」	プロジャズミュージシャンによる長期間のワークショップを受けた区内中学生と日野皓正ら一流ミュージシャンによるジョイントコンサートを実施する。(2回予定)	880人	8月	パブリックシアター
	こどもプロジェクト③ 「イデビアン・クルー」	五輪音頭の振付などでも知られる井手茂太を迎え、こどもも大人も楽しめるダンス公演を創作する。関連企画としてワークショップなども実施し、一部作品のエッセンスとして取り入れるなど、多角的に楽しめる参加型公演を目指す。(全4回予定)	2,000人	9月	パブリックシアター

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
伝統芸能企画	爆笑寄席●てやん亭	実力、評価、将来性などを備えた、落語、漫才、講談等の寄席芸能のプログラムを企画し上演する。面白さ、豊さを伝え、我が国の古典芸能の一つである話芸の普及と向上を図る。(1回予定)	350人	31年1月	パブリックシアター
ダンス公演	ダンス提携公演／育成	気鋭の若手カンパニーからベテランまで、選りすぐりのダンスカンパニーと提携し、現代演劇と舞踊を専門として上演する劇場のレパートリーの多様性を創出する。創作活動を支援しながら、演劇的な要素や、音楽、美術など、異なるジャンルのアートとの出会いを提案し、世田谷でしか生まれ得ない新しい舞台芸術の創造を目的とする。 【舞踊】 ・山海塾 ・横山綾乃lal banshees ・ながめくらしつ ・プロジェクト大山 ・笠井叡振付「高岳親王航海記」 ・暁 ・平山素子「POISON」 ほか	5,400人	通年	パブリックシアター／シアタートラム
音楽公演	音楽提携公演	区民に芸術性に優れた音楽の鑑賞機会を提供し世田谷区の文化振興を図るため、優れた音楽グループ等と提携して音楽コンサートを実施する。 ・古武道　ほか	450人	通年	パブリックシアター
提携公演	演劇提携公演	気鋭の若手から長年の実績を誇るカンパニーまで、優れた演劇作品の上演実績がある劇団・ユニット・制作会社・団体等と提携し制作的な補助、広報宣伝協力等を行う。 【演劇】 ・無名塾 ・シス・カンパニー ・CAT ・公益財団法人国際演劇協会 ・日本音響家協会 ・チェルフィッチュ ・劇団東演　ほか	31,500人	通年	パブリックシアター／シアタートラム

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
コミュニティプログラム	演劇・ダンスワークショップ	演出家・進行役・ダンサーなどを招き、目的・対象に応じたワークショップを一般参加者を対象に行う。 1～2日単位で気軽に体験できるワークショップから、複数日あるいは長期間を1企画として舞台芸術を創造するさまざまな要素を体験したり、地域の課題等にアプローチして作品に仕上げるワークショップも行う。（通年30回予定）	550人	通年	稽古場ほか
	子どものためのワークショップ	子どもを対象に、劇場内外を問わず演劇やダンスのワークショップを実施する。（通年55回予定） ①「長期休暇中のWS」：子どもたちが参加しやすい学校の長期休暇に合わせて3日間程度の中期間に渡る演劇・ダンスのワークショップ ②中学生演劇WS：年間を通じて、じっくり演劇やダンスに取り組みたい中学生を対象に、約1年を通して作品創作を目指すワークショップ	755人	通年	稽古場ほか
	地域の物語	区民を中心とした参加者たちが世田谷のまちを歩いて取材したり、各々が持ち寄った課題やモチーフを使って演劇やダンスの要素を用いたワークショップを重ねる、自分たちの住む地域について思考しつつ、ワークショップを通して得た発見をもとに作品を創造し、3月にはシアタートラムで発表公演を行う。公演は入場無料で劇場周辺住民を中心として気軽に来場できるようにしている。（WS29回予定）	参加者 435人 発表会 250人	通年	稽古場／シアタートラムほか
学校とその他区内施設との連携プログラム	学校のためのワークショップ	世田谷区内の小中学校の児童・生徒・教員を対象に実施する。（通年180回予定） ①ワークショップ巡回団：進行役やアーティストが学校へ出向き、授業時間の中で児童・生徒を対象とした演劇的手法を用いるワークショップを実施するほか、演劇作品の鑑賞と、その演劇作品をもとにしたワークショップを実施する。 ②先生のためのワークショップ：小中学校の先生が授業で活用するためのヒントとなるようなワークショップや事業報告会を年間を通じて劇場内外で実施する。	7,715人	通年	世田谷区内の各小中学校／稽古場
	中学校演劇支援	世田谷区立中学校教育研究会演劇教育部と連携し、区内中学校演劇部の活動を、年間を通じて支援・指導を行う。（通年30回予定） ①夏期休暇期間中の区立中学校の全演劇部員を対象としたワークショップの実施 ②秋季世田谷区立中学校演劇部合同発表会に対する、技術・制作スタッフの派遣 ③区内中学校演劇部に所属する生徒・顧問らを対象とした、演劇創作活動に伴う技術面の簡易講座の実施。	440人	通年	世田谷区内各小中学校／区民会館ほか

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
学校とその他区内施設との連携プログラム	区内施設連携プログラム	地域住民の生活拠点となっている区内施設／団体（ボランティアセンターや障害者支援施設等）に進行役を派遣して、演劇的手法を用いたワークショップを施設利用者及び近隣住民に向けて実施する。（通年11回予定）	120人	通年	世田谷区内の施設/稽古場
	小学校古典芸能鑑賞教室 ［区受託］	世田谷区立の小学校（全校）6年生を対象に、区民会館にて狂言の公演と、公演を楽しむためのワークショップを実施。能狂言の発想や技能を体感し、日本固有の伝統芸能について関心を高める機会を提供する。（12回予定）	5,700人	6月	砧、世田谷、烏山区民会館
	中学生課外講座 新・才能の芽を育てる体験学習 ドリームジャズバンド・ワークショップ ［区受託］	日野皓正氏をはじめとするプロのミュージシャンを講師に迎え、音楽の魅力と仲間とともに演奏する素晴らしさを体験するワークショップを長期間かけて実施する。8月には成果を発表するコンサートを行う。（WS27回予定）	50人	4月～8月	池尻小学校第二体育館／パブリックシアターほか
	教科日本語 ［区受託］	世田谷区立小学校の教員を対象として、夏季研修事業のうち、次の科目を受託し、実施する。（2日間） ①教科日本語 ②演劇などを活用した表現活動	60人	夏季休業期間中	世田谷区内各学校ほか
	移動劇場「@ホーム公演」	劇場への来館が難しいお年寄りや障害者が生活する施設へ、アーティストが訪問し、オリジナルの演劇作品を上演する。観客は施設の利用者をはじめ、その家族、施設で働く人々、近隣に暮らす人たちなど。普段の生活空間をそのままに、食堂やラウンジなどを利用して舞台をつくり、見ている人たちの目の前でプロの俳優たちが演じる。9年目を迎える30年度は、これまで「@ホーム公演」での作品創作を手掛けてきたノゾエ征爾の新作公演を予定している。（14施設訪問予定）	1,250人	4月～5月	区内特別養護老人ホーム、デイサービス、障害者施設

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
研究育成プログラム	観客育成プログラム	地域住民及び観客を対象に、主催公演関連のWSや作品の分析・舞台芸術についての知識を深める企画を実施する。（通年25回予定） ①世田谷パブリックシアターダンス食堂：現役のダンサーを招き、その理念やメソッドに触れるワークショップ及びトーク ②舞台芸術のクリティック：舞台芸術に対し批評的な視点を獲得し、その視野を広めるレクチャー及びゼミ	265人	通年	セミナールーム／ワークショップほか
	専門家育成プログラム	ワークショップの進行役・ファシリテーターや研究者、インターン希望の大学生を対象として、主催事業で実際に劇場の仕事に関わるプログラムを実施する。（通年30回予定） ①「大学生インターン」大学生を対象とした現場でのインターンシップ ②「世田谷ワークショップラボ」演劇ワークショップの社会的活用を紹介するレクチャーやワークショップ	450人	通年	両劇場／稽古場／セミナールーム／ワークショップルームほか
舞台技術者人材育成プログラム	舞台技術講座	次世代を担う舞台技術者やプランナー、デザイナーを対象に舞台・照明・音響各分野で未体験者及び体験者向けの安全講座、各分野別プログラムを実施する。初級編、中級編など段階ごとのプログラムを設けている。	―	5月、10月	パブリックシアター
	舞台技術支援	劇場使用者等に対して、設備等の使用講習会の実施や、プラン・オペレートや機材等の支援を行う。	―	通年	―
区民の表現の場の提供	フリーステージ	音楽部門、ダンス部門からなり、出演者は世田谷区民を中心とした文化団体から公募。区内のアマチュア団体に発表機会を提供し、地域の文化芸術活動の活性化を図る。（バレエ・ダンス部門3回、音楽部門1回）	2,800人	4月29日～5月6日	パブリックシアター／シアタートラム
	シアタートラム　ネクスト・ジェネレーション　vol.11	公募で選ばれた若手の実演家・実演団体に対し劇場が制作面・技術面を全面的にサポートし公演を行う企画で、若手アーティストの登竜門的存在ともなっている。30年度で11回目を迎える。（5回予定）	700人	11月～12月	シアタートラム
地域活性のための文化芸術事業	世田谷アートタウン2018 「三茶de大道芸」	三軒茶屋の活性化と地域の文化向上を図るため、地元商店街や町会等との実行委員会方式により実施する。三軒茶屋の街を舞台に、商店街の各所等で大道芸のパフォーマンスなどを行う。2日間開催（文生センター全体事業）	200,000人	10月20日、21日	パブリックシアター、三軒茶屋駅周辺商店街ほか

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
劇場広報	劇場営業広報宣伝	営業・広報・宣伝活動を通じて、世田谷パブリックシアターの事業を世田谷区内外に広く周知し、地域の劇場／創造発信型劇場としての当劇場の存在意義を高めるブランディング活動とともに、マスコミへの情報提供、ホームページや広報誌などによる情報発信により、主催事業への集客を図り、財団の収益性の向上に資する活動を行う。	―	通年	―
	学芸共通広報宣伝	学芸で行われているワークショップ・レクチャー等の普及を進めるための広報物の作成や宣伝等の活動を、紙媒体を中心に展開する。	―	通年	―
	劇場雑誌の発行	各事業の成果を記載したアニュアルレポートを劇場雑誌として編集・発行する。今年度は平成29年度の事業を報告するための冊子を作成する。その他、必要に応じて事業ごとの活動を分析、記録、周知する劇場雑誌を編集・発行する。	1,000部	通年	―
海外招聘・国際共同制作	日中平和友好条約40周年記念公演 上海戯劇学院 「風をおこした男―田漢伝」	中国国歌の創作者で、中国劇界に美しい作品を遺し文化大革命下に獄死した悲劇の劇詩人の半生を、現代中国演劇界で今最も注目される女性演出家 田沁鑫の現代的演出で描き出す洗練された舞台。(2回予定)	800人	10月	パブリックシアター
	日本・スウェーデン外交関係樹立150周年世田谷アートタウン2018関連企画 サーカス・シルクール 「LIMITS」	日本・スウェーデン外交関係樹立150年記念事業として、ストックホルムを拠点とし、スカンジナビアを代表する現代サーカスのカンパニー“サーカス・シルクール”を招聘する。年齢、性別、国籍、障害などあらゆる境界を崩そうと、様々な社会問題に焦点をあて、メッセージ性の強い作品を発表してきたシルクールが、2015年に巻き起こった欧州難民危機を題材にした話題作「LIMITS」を上演することで、多くの観客に質の高いパフォーマンスを楽しんでいただくと共に世界的な社会問題に目を向ける機会を提供することを目的としている。(3回予定)	1,350人	10月	パブリックシアター
	海外招聘舞踊公演 ストップギャップ ダンスカンパニー 「エノーマスルーム」	車椅子使用者やダウン症などのパフォーマーがメンバーとして活躍するイギリスのインクルーシブ(＝分け隔てのない)ダンスカンパニー”ストップギャップ”の初来日公演。障害のある人、ない人がともに協力して創造する同カンパニーの作品の招聘は、舞台芸術の新たな可能性、新しい表現方法を観客に提示するとともに、舞台芸術に係る全ての人たちのポテンシャルを高める貴重な機会を創出する。(2回予定)	800人	31年3月	パブリックシアター

（3）世田谷文化生活情報センター　音楽事業部

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
身近に親しむ演奏会	せたがやジュニアオーケストラ オータムコンサート	親しみやすい曲目と仕掛けを用意して、せたがやジュニアオーケストラの練習の成果を、定期演奏会の会場である世田谷区民会館で披露する。	750人	9月30日	世田谷区民会館
	室内楽シリーズ	内外で活躍する演奏家による室内楽演奏会。今年度は、弦楽四重奏団の公演のほか、邦楽のコンサートを開催する。	各250人	6月30日 10月8日	成城ホール
	午後の音楽会	一流の音楽家の演奏を気軽に楽しむコンサート。日頃あまり演奏会に出かけない層に向けて、工夫をこらす。	200人	10月25日	シアタートラム
活動をつなぐ演奏会	音楽監督企画 「異分野とのコラボレーション」	池辺晋一郎・音楽監督企画公演。音楽とは一見無縁な領域・分野で活躍するゲストを迎え、音楽にまつわるトークを交え進行する、世田谷ならではの独自企画。	250人	31年 3月16日	北沢タウンホール
	せたがや名曲コンサート	世田谷フィルハーモニー管弦楽団と世田谷区民合唱団の共演による、年に一度、恒例の演奏会。実行委員会形式で実施。	1,300人	31年 2月24日	昭和女子大学人見記念講堂
	連携コンサート	有意義な企画を選んで、他の団体と共同で開催するコンサート。多様な事業を展開し、演奏・鑑賞、双方の面から活動を活発化する。世田谷美術館との邦楽公演、宮川彬良スペシャル・プロデューサーのバレエ付コンサート、の2企画を予定。	計1,500人	5月27日、 31年1月13日	世田谷美術館講堂、昭和女子大学人見記念講堂
ワークショップ・講座	せたがや音楽研究所	宮川彬良が、奇想天外かつ独自の解釈で、音楽を紐解く、世田谷ならではのバラエティ形式のコンサート。従来のホールでの公演のほか、学校での開催を予定。	1,050人	9月15日	世田谷区民会館
			100人	未定	未定
	Let's Sing ゴスペル! 2018	「人生の応援歌」として人気が高まってきているゴスペルを体験するワークショップを開催する。利便性を考え、時間や場所を変え、3コース程度開催する。	未定	未定	三茶しゃれなあどホールほか
		ワークショップ参加者が、プロと共演するゴスペルコンサートを開催する。	700人	12月15日	世田谷区民会館
	【オリンピック・パラリンピック関連事業】 和の音楽ワークショップ	子どもを対象としたワークショップを開催、音楽へ興味をもち親しんでもらえる機会を提供する。2020年を間近に、日本の音楽を取り上げる。	未定	未定	未定

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
次の時代のためのプログラム	せたがやジュニアオーケストラ運営	子どもたちが、オーケストラ活動を通じ、情操や協調の精神を学び、豊かな人間性、社会性を身に付けることを目指す。今年度は夏に合宿を予定している。	延3,000人	通年	区内各所
	せたがやジュニアオーケストラ定期演奏会	「せたがやジュニアオーケストラ」の1年間の活動の締めくくりとして開催する定期演奏会。9回目となる今回、内容充実のため、2年連続で同じ指揮者を迎える。	800人	31年 3月21日	世田谷区民会館
	学校へのアウトリーチ	学校と連携して、小中学生が、本格的な演奏に触れ、音楽への親しみや興味を持つ機会を提供する。	200人	未定	区立小・中学校
区民の表現の場の提供	せたがやバンドバトル	バンド活動に励む区民から出場者を募り、区内の複数のライブハウスで予選を実施、決勝大会進出を競う。	50バンド	9月～10月頃	区内複数のライブハウス
		ライブハウス予選で勝ち残ったバンドが出場する決勝大会を開催。グランプリを決定し、表彰する。	500人	31年 2月17日	世田谷区民会館
	世田谷区民音楽団体の支援 ［区受託］	世田谷フィルハーモニー管弦楽団、世田谷区民合唱団、世田谷区民吹奏楽団、3団体の活性化、発展を側面から支援する。	3団体	通年	―
地域活性化のための文化プロジェクト	せたがやまちかど・まちなかコンサート	区民が身近な地域で音楽を楽しめるよう、区内各所の比較的小規模の公共施設や街角などで、小編成バンドなどによるコンサートを実施する。	1,500人	未定	区内公共施設、街頭など
	せたがや音楽プロジェクト	世田谷在住の音楽関係者が中心となり、地域から音楽文化を発信するため、多彩な事業を企画・開催する。	1,000人	6月2日、 31年2月2日	北沢タウンホール成城ホール
	商店街アートプロジェクト［区受託］	商店街が企画、実施する音楽祭などに、アーティストを派遣、事業を盛り上げるとともに活性化を図る。	500人	未定	5商店街
音楽事業部広報	「情報ガイド」をはじめとする各種広報活動	情報ガイドやホームページ、さらにはマスコミ等への情報提供を通じ、事業予定・内容等を広く区民へ発信するほか、戦略広報としての展開を推進する。	―	―	―
	「せたがや音楽通信」の発行［区受託］	民間も含めた、区内の各種音楽会や施設情報などを掲載した「せたがや音楽通信」を季刊で発行し、音楽文化振興、区民の音楽活動を促進する。	15,000部	4月、7月、 10月、 31年1月	―

（4）世田谷美術館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
企画展事業	ボストン美術館　パリジェンヌ展 ー時代を映す女性たち	アメリカのボストン美術館の所蔵品を当館にて紹介する企画展第2弾。「ジャポニスム」に続き、「パリジェンヌ」というタイトルのもと、「パリ」という特異な都市文化を形成してきたあまたの女性たちの肖像を、歴史的な推移とともに俯瞰する。	3,000人 （総計： 120,000人）	（1月13日） ～4月1日	世田谷美術館
	人間・髙山辰雄展	戦後の日本画壇を代表する髙山辰雄（1912-2007）の回顧展。伝統的な日本画に根ざしつつ、独自の精神世界をひたむきに追究し、幽玄で静謐な画風を深めた。精神性の高い絵画表現が高く評価され、1982年文化勲章を受章。1951年より世田谷区成城に住んだゆかりの作家の画業を振り返る。	20,000人	4月14日～ 6月17日	世田谷美術館
	没後40年　濱田庄司展 大阪市立東洋陶磁美術館所蔵　堀尾幹雄コレクションを中心に〔仮称〕	人間国宝に認定された陶芸家濱田庄司は、英国に滞在後、益子に居を構え、地に足のついた暮らしのなかで陶芸制作を行なった。堀尾コレクションは、濱田庄司の「良き生活者」の思いに共鳴した使い手によるコレクション。日々の暮らしのなかで息づく、使う器としての視点から濱田庄司の器の魅力に迫る。	18,000人	6月2日～ 8月26日	世田谷美術館
	向井潤吉展　人物交流記 民家の画家の身辺有情	戦後洋画壇をリードした向井潤吉。向井が感慨をこめて綴ったさまざまな文章を手がかりとして、彼が画家として成長し、道を拓いていく過程に関わった画家たちの様子からそれぞれの時代の景色を浮かびあがらせる。	20,000人	9月8日～ 11月4日	世田谷美術館
	ブルーノ・ムナーリ展〔仮称〕	20世紀イタリアを代表する芸術家ブルーノ・ムナーリ（1907-1998）の多彩な活動を紹介する。日本では約30年ぶりの本格的回顧となる本展では、1985年の 来日時のワークショップを作品を読み解く鍵とし、ムナーリの活動全体を再検証する。	20,000人	11月17日～ 31年1月27日	世田谷美術館
	田沼武能写真展〔仮称〕 東京わが残像　1948－1964	戦後日本の写真界をリードし、88歳の今も第一線で活動を続ける田沼武能(1929 －　)。田沼のライフワークひとつ「戦後の東京」をとりあげる。焼け野原から出発し、矛盾を内包しながらも再生を目指し激しく変貌した東京の、オリンピックに至るまでをとらえた写真を「こども」「下町」「街の変貌」の3つの視点から紹介。加えて戦後東京を映しだす文化史料を展示する。	8,000人 （総計： 10,000人）	31年2月9日 ～ （4月14日）	世田谷美術館
	小野二郎のユートピア展〔仮称〕 〔平成31年度事業の準備年〕	ウィリアム・モリスの研究家であった英文学者小野二郎（1928-1982）が生涯とおして追い求めたのがユートピアの思想である。1960年に晶文社を立ち上げ、70年代のカウンター・カルチャーを牽引し、晩年には飛騨高山の「高山建築学校」でモリスの思想を説き、建築家に大きな影響を与えた。〈ウィリアム・モリス〉〈晶文社〉〈ユートピア〉をキーワードに構成し、その思想を探る。	―	（31年 4月27日～ 6月23日）	世田谷美術館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
調査・研究	調査・研究	—	—	—	—
	①企画展	次年度以降の企画展の立案・具体化のため、国内外各所との交渉や基礎的な調査研究を行う。	—	通年	世田谷美術館
	②収蔵品等［指定管理］	収蔵品に係る調査・研究を行う。学芸員による調査研究成果を『紀要』として編集発行し、美術研究に資する。	300冊	通年	世田谷美術館及び分館
	アーカイブ［指定管理］	本年度の事業のまとめとして『年報』を編集発行し、美術館活動を総括し、記録する。	300冊	通年	世田谷美術館
収蔵品展	美術館 ミュージアム コレクション［指定管理］	世田谷美術館の収蔵作品を、テーマを設定して公開する。 第Ⅰ期 〈それぞれのふたりシリーズ〉「小堀四郎と村井正誠」(74日間)	30,000人	4月14日～7月8日	世田谷美術館
		第Ⅱ期 東京スケイプ(80日間)		7月21日～10月21日	世田谷美術館
		第Ⅲ期 アフリカ現代美術のすべて(123日間)		11月3日～(31年4月7日)	世田谷美術館
	向井潤吉アトリエ館収蔵品展［指定管理］	向井潤吉作品に係る作品展を年2回実施する。 第Ⅰ期 向井潤吉 民家と街道 (126日間)	8,100人	4月3日～8月26日	向井潤吉アトリエ館
		第Ⅱ期 向井潤吉 民家の旅-風土のかたちを求めて(159日間)		9月8日～31年3月7日	向井潤吉アトリエ館
	清川泰次記念ギャラリー収蔵品展［指定管理］	清川泰次作品に係る作品展を年2回実施する。 第Ⅰ期 清川泰次 色と色のハーモニー(126日間)	2,400人	4月3日～8月26日	清川泰次記念ギャラリー
		第Ⅱ期 清川泰次 昭和の学生旅行(159日間)		9月8日～31年3月7日	清川泰次記念ャラリー
	宮本三郎記念美術館収蔵品展［指定管理］	宮本三郎作品に係る作品展を年2回実施する。 第Ⅰ期 宮本三郎 親密な空間(126日間)	3,600人	4月3日～8月26日	宮本三郎記念美術館
		第Ⅱ期 宮本三郎 装飾性の展開(159日間)		9月8日～31年3月7日	宮本三郎記念美術館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
資料収集・管理	資料収集 ［指定管理］	貴重な美術作品及び美術に関する資料を、世田谷区民の文化的財産として蓄積していくため、区と共に収集委員会条例に基づき、美術品等を収集する。現在、作品の購入はないが、作家本人や区民から寄贈の申し出があり、収集する機会が生ずる。これらの機会を的確にとらえ調査を行い、収集委員会への提案に結び付けていく。	―	通年	世田谷美術館及び分館
	作品保管整理 ［指定管理］	収蔵品を保管・整理し、いつでも展示・公開できるように作品のコンディションを良い状態に保つ。問題が生じた作品は修復や額装改善などの処置を施す。作品のデータについては収蔵品管理システムを活用し、一括管理する。また、収蔵品の公開の機会を増やすため、貸付要領に基づき、作品の貸出を行う。	―	通年	世田谷美術館及び分館
ワークショップ・講座	講座・ワークショップ	―	―	―	―
	①講座・ワークショップ	美術の普及を目的とした各種講座、企画展に関連した講座、子どもから大人まで幅広い年齢層を対象とした単独開催形式の講座を開催する。100円ワークショップなど、実技の体験を目的とした講座や小中学生を対象に連続した実技と講義で美術を学ぶ講座を開催する。	1,500人	通年	世田谷美術館
	②えんげきのえ	展覧会の内容や当館の建築などからヒントを得て、一般参加者（主として10代～20代の若者）が演劇をつくる。プロの演出家が講師となり、参加者の表現をサポートする。（2回）	30人	年2回	世田谷美術館
	美術大学	5月から12月まで約半年間、講義、実技、鑑賞を組み合わせて総合的に美術を学ぶ区民のための講座(45日間)。また修了者を対象としたステップアップ講座を開催する。（39日間）	160人	通年	世田谷美術館
	パフォーマンス	―	―	―	―
	①プロムナード・コンサート	美術館を音楽による交流の場とするとともに、若手音楽家の育成を図ることを目的に、実力ある若手音楽家によるリサイタル形式のコンサートを行う。（3回）	420人	6月、31年1月、3月	世田谷美術館
	②トランス/エントランス	館内のあらゆる場所でパフォーマンスができるようにと設計された当館のユニークな建築空間を活かし、建築の特性を楽しめるようなパフォーマンスを実施する。（2日間、1回）	190人	年1回	世田谷美術館
	③展覧会関連イベント	展覧会内容に関連するパフォーマンス等のイベントを実施する。当館の展覧会は狭義の「美術」に限定されない内容を含むことが多く、関連企画というかたちで展覧会内容の広がりをいっそう魅力的に紹介する。	130人	5月	世田谷美術館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
ワークショップ・講座	分館講座室活動	ギャラリートーク・講演会・ワークショップ・コンサートなど、様々な教育普及活動を行う。地域の商店会などとタイアップした事業も実施。（ギャラリートーク6回、宮本三郎記念美術館と地域の会共催4本、音と映像で楽しむクラシック講座3本]、ワークショップ・講演会3回、コンサート3回）	656人	通年	向井潤吉アトリエ館／清川泰次記念ギャラリー／宮本三郎記念美術館
子どもと学校プログラム	鑑賞教室	世田谷区教育委員会との連携により、世田谷区立の小学校4年生の児童、中学校1年生の生徒を対象に、展覧会及び美術館内の施設見学を実施する。また特別プログラムでは、当館インターンによる区立小学校への出張授業を行う。（鑑賞教室は小中学校全91校）	11,300人	通年	世田谷美術館ほか
人材育成プログラム	博物館実習	学芸員後継者育成と美術館の普及のために、博物館学実習の講義、実習を行う。（10日間）	20人	通年	世田谷美術館
	インターンシップ	長年の実績がある学芸大学インターン生を指導し、鑑賞教室で来館する区内小学校4年生への事前（事後）出張授業を行う特別プログラム。今後はインターン生を指導し、当館の教育普及事業の企画実施にも展開する可能性を探る。（小学校希望校約30校を予定）	5,300人	通年	世田谷美術館ほか
	区内大学との連携事業	区内の各地域や学校と連携し、コラボレーション事業を行う。過去には、三軒茶屋を舞台にした昭和女子大学主催の芸術系プロジェクトや、用賀駅前で行う大学生主体の「用賀サマーフェスティバル」と連携した。今年度も上記2つとコラボレーションし、世田谷美術館のコレクションを活用したワークショップや創作活動を実施する。	1,000人	通年	世田谷美術館／区内大学
アクセシビリティ向上事業	アクセシビリティ向上事業	展覧会に関連した講演会において、より良い理解を目的として、手話通訳を手配し、配置する。	50人	通年	世田谷美術館
	ミュージアム・セッション	美術と教育に関心のある方を対象に、美術を鑑賞する方法を幅広い視点からとらえ直すことを目的に、視覚障害者の美術鑑賞に関して先進的な活動を行っている海外の美術館の事例を紹介する。	140人	8月	世田谷美術館
アートライブラリーの運営	アートライブラリーの運営［指定管理］	世田谷美術館が所蔵している美術専門書の閲覧やビデオ視聴、またレファレンスサービス等による情報提供を行う。	12,000人	通年	世田谷美術館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
区民の表現の場の提供	区民絵画・写真展（交互・隔年開催）	世田谷区もしくは川場村在住・在勤・在学者を対象に、隔年で、絵画作品（洋画、水彩画、日本画、版画）及び写真作品の募集を行い、審査の上、入賞・入選作品を区民ギャラリーにて展示する。30年度は絵画作品の募集・展示を行う。	250人	31年1月	世田谷美術館
	区民ギャラリー等の貸出 ［指定管理］	世田谷美術館及び清川泰次記念ギャラリーにおいて、創作活動発表の場として区民ギャラリーの貸出を行う。	—	—	—
	①美術館（本館）区民ギャラリー	創作活動発表の場として、世田谷美術館の区民ギャラリーA・B貸出を行う。	78,000人	通年	世田谷美術館
	②美術館（本館）講堂	文化・芸術に関する活動・発表の場として、美術館活動に支障のない範囲で世田谷美術館の講堂貸出を行う。	1,600人	通年	世田谷美術館
	③清川泰次記念ギャラリー区民ギャラリー	創作活動発表の場として、清川泰次記念ギャラリーの区民ギャラリー貸出を行う。	6,000人	通年	清川泰次記念ギャラリー
地域活性のための文化芸術事業	ボランティア活動	世田谷区立小学校鑑賞教室及び出張授業、中学校鑑賞教室、川場村小学校出張授業、ミュージアム・ツアー、ワークショップ、イベント等の支援を行う。	250人	通年	世田谷美術館ほか
	さくら祭	エントランス広場での美術館PRのためのイベントを開催する。（2日間）	3,000人	30年4月 14日、15日	世田谷美術館
美術館広報	美術館広報	ホームページや印刷物のほか、マスコミ等の媒体への情報提供を通じて、館の活動や事業予定・内容等について広く区民等へ発信する。	—	通年	—
	美術館だより・年報の発行	美術館だより（年3回、6月・10月・30年2月発行、各1,500部）、年間予定表（31年3月発行、50,000部）の発行を行う。	—	—	—

（5）世田谷文学館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
企画展事業	林芙美子　貧乏コンチクショウ ―あなたのための人生処方箋―	幼少期の行商生活を経て、職を転々としながらも詩や童話、随筆を書き続けた林芙美子は、自らの貧困生活へ立ち向かうように、生きる苦しみを吐露し、血みどろの人生を奔放な文体で表現した。とりわけ『放浪記』は、映画やテレビ、そして舞台などに姿を変え、ひた向きに力強く生きる女性を描いた名作として、戦前・戦後を通じて多くの読者を魅了し続けている。芙美子は大正14年、世田谷区太子堂の二軒長屋に暮らした。苦しい生活の中でも、作家仲間に支えられた時期でもあった。芙美子の作品は、作者自身の前向きな人生観に裏打ちされており、労苦の多かった人生経験がその奥行を形作っている。本展では、芙美子のことば・詩を中心に、原稿・書簡・遺愛品など約300点の資料を紹介する。	7,000人	4月28日～ 7月1日	世田谷文学館
	BE MY BABY 信藤三雄 レトロスペクティブ	松任谷由実、ピチカート・ファイヴ、Mr. Children、AKB48など、日本の音楽シーンをリードしてきた数多くのミュージシャンのCDジャケットを手がけ、新鮮なヴィジュアルイメージと、革新的なプロダクトを生み出してきたアートディレクター、信藤三雄（1948～）。写真家、映像ディレクター、書家、音楽家としても才能を発揮し、その作品は各方面のクリエイターにも影響を与え続けている。本展では80年代の初期作から最新の仕事に至るまで、音楽とともにあり続けたアートワークの数々を展覧し、創作プロセスを示す貴重な資料も交えながら、信藤三雄のクリエイティビティの全貌に迫る。	11,000人	7月14日～ 9月17日	世田谷文学館
	筒井康隆展	『時をかける少女』『七瀬ふたたび』『虚人たち』『虚航船団』『旅のラゴス』『残像に口紅を』『文学部唯野教授』『モナドの領域』…、エンターテインメントと純文学の垣根を自由に越境、常に読者を驚かせ、魅了し続ける作家・筒井康隆。既存の文学・概念をぶち壊し、その文学を形容することばを探しても、並べたその先から陳腐化してしまう、完全降伏せざるを得ない唯一無二の存在である。それは私たちの前にあらわれたその日から、今、この時に至るまで、全く変わることがないことも、さらなる脅威を呼び起こす。 2018年、世田谷文学館は現代文学最高峰「筒井康隆」に挑む。すべてにおいて規格外のこの作家の魅力を、初公開の原稿ほか多彩な資料と、独創的な展示空間でお伝えする。	14,840人	10月6日～ 12月9日	世田谷文学館
	第37回　世田谷の書展	現代書壇を代表する区内在住書家約40名による、所属会派を超えた新作展を開催。「世田谷ゆかりの作家たち」をテーマにした作品により、日本が誇る文化・文学と書道が織りなす豊かな芸術世界を展観する。	560人	31年1月8日 ～14日	世田谷文学館

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
企画展事業	ヒグチユウコ展　Circus	緻密なタッチで描かれた可愛くて少しダークな世界観で、多くの女性から絶大な支持を集めている画家ヒグチユウコ。個展での作品発表の傍ら、『ふたりのねこ』(2014)で絵本作家としてもデビュー。さまざまな企業とのコラボレーションなどでも活動の幅を広げている。本展は初期作品から最新作まで、約20年の画業の中で描かれた300点以上の作品を展示する初めての大規模な展覧会となる(朝日新聞社との共同企画による全国巡回予定)	17,980人	31年 1月19日～ 3月31日	世田谷文学館
調査・研究	調査・研究 ［指定管理］	文学館活動の基盤となる世田谷ゆかりの作家・ゆかりの作品の調査・研究を行う。	―	通年	世田谷文学館
収蔵品展	コレクション展 ［指定管理］	文学館常設展示室で、世田谷を舞台にした文学作品の関連資料と、ゆかりの文学者の資料を展示し、区民に広く文学に親しむ機会を提供する。前後期それぞれテーマを決め、ゆかり作家と館蔵資料を幅広く紹介する。本年度前期は、29年度に齋藤家より受贈した北杜夫旧蔵資料のうち、齋藤茂吉歌稿本や書画、北杜夫の原稿、自筆資料など初公開資料を数多く紹介する。	22,000人	4月28日～ 31年3月31日	世田谷文学館
資料収集・管理	資料収集・管理 ［指定管理］	世田谷ゆかりの作家や区民等からの寄贈・寄託により、文学資料等の収集を行う。世田谷区が所有している作品を系統的に整理するとともに、良好な状態で保存・展示するため保管管理し、計画的に調査を進める。また、貸付要領に基づき、コレクションの貸付を行う。なお、逼迫した課題である収蔵庫狭小化への対策のため、収蔵庫内配置の再検討・一部資料の移動を行う。	―	通年	世田谷文学館
OAシステム	OAシステムの運用[指定管理]	世田谷文学館の収蔵資料を適切に管理し、活用・公開を促進するために収蔵品管理システムの管理運営を行う。また今年度より主要収蔵品の当館ホームページ上でのインターネット公開を目指し、公開用システムの整備に取りかかる。	―	通年	世田谷文学館
地域連携事業	どこでも文学館	「いつでも、どこでも、だれでも参加できる博物館」というコンセプトのもと、館内では、子ども向けワークショップやワークシート制作などのプログラムを開発、実施する。館外では、学校や地域と連携しながら写真展や文学作品のパネルなどの出張展示・出張ワークショップを実施する。新規出張展示キット制作も行う。(館内ワークショップ4企画、出張展示20回、出張ワークショップ4企画)	50,000人	通年	世田谷文学館、区内小中学校、区民センター、川場村など

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
講演会等事業	企画展・コレクション展、ライブラリー関連講演会、上映会、コンサート等事業	企画展・コレクション展やライブラリー事業と連動したトークイベント、講座、コンサート、上映会、ワークショップなどを実施し、乳幼児も含めた幅広い層の来場者に文学館のさまざまな楽しみ方を提案する。	2,000人	通年	世田谷文学館
	連続講座	館長プロデュースにより、一人の作家に焦点を絞った講演会・対談等を短期間に集中して開催する。	300人	31年2月予定	世田谷文学館
	セタブンマーケット2018	書物との新たな出会いと多様な楽しみ方を発信する、本と雑貨の蚤の市。作家・デザイナー・編集者からの特別出品や、子どもも楽しめるミニワークショップなど、世田谷文学館独自の内容で開催。2018年度は、春夏秋冬4回の企画展と連動し、多角的な視点から開催する。	2,000人	6月・8月・11月・31年2月予定	世田谷文学館
活動支援・共催事業	市民活動・友の会の支援など	友の会をはじめ、文学活動を中心とする区内外の団体の講座や活動を支援し、市民の生涯学習の要望に応える。	1,000人	通年	世田谷文学館ほか
人材育成プログラム	学芸員実習	学芸員後継者育成のために、博物館学実習の講義・実習を行う。(6日間)	5人	7月～8月	世田谷文学館
	職場体験受入	参加者は事業の企画や実施に直接参加できるようなプログラムで、近隣の中学などから職場体験を受け入れる。	50人	通年	世田谷文学館
ライブラリーの運営	ライブラリーの運営 ［指定管理］	授乳室などのベビーケア設備を備えた親子のための本のエリアや、各分野のプロフェッショナルや作家が薦める本のコーナー、定期的に入れ替わる特集コーナーなど、書物との新たな出会いと多様な楽しみ方を可能にする、地域のための図書空間を企画・運営する。また、3階閲覧室において、収蔵している閉架資料の閲覧サービスを行う。	20,000人	通年	世田谷文学館
文学館広報	文学館広報	ホームページや印刷物のほか、マスコミ等の媒体への情報提供を通じて、館の活動や事業予定・内容等について広く区民等へ発信する。	―	通年	―
	文学館ニュースの発行	文学館の事業活動を広く周知するため、文学館ニュースを年3回発行する。	各10,000部	通年	―

（6）財団共通

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
来館者サポート	来館者サポート	様々な状況にあるお客様の参加機会を増やすために、公演等において来館者サポートを行う。	―	通年	―
		生活工房 ①車椅子の貸出　など			
		世田谷パブリックシアター ①託児サービス ②車椅子サービス（貸出、スペースの確保、エレベーター移動補助等） ③視覚障害者のための音声案内システム付き化粧室の設置 ④視覚障害者のための舞台説明会（主催公演のみ） ⑤盲導犬を伴っての観劇 ⑥視覚障害者の為のイヤホンガイド(特定の公演のみ) ⑦聞こえにくい方向けのヒアリングサポートシステム（特定の公演のみ） ⑧聴覚障害者のための上演台本貸出 ⑨聴覚障害者のための手話動画サービス（劇場HP）によるアクセス案内およびチケット購入方法等の案内 ⑩聴覚障害者のための筆談具設置 ⑪非常時の避難方法及び広域避難場所への地図の配布　など			
		美術館 ①講演会での手話通訳 ②車椅子、昇降式車椅子等の貸出 ③ベビーカーの貸出 ④授乳室の利用　など			
		文学館 ①車椅子の貸出 ②ベビーカーの貸出 ③授乳室の利用 ④託児サービスの実施　　など			
	せたがやアーツカード	世田谷区民を対象とする会員制度。主に財団主催の公演チケットの割引・先行発売、展覧会チケットの割引や、会員向けメールマガジンによる情報提供等の特典により、財団事業や施設利用者の拡大及び情報提供機能の強化を図る。	登録者数 16,000人	通年	―

事業名	個別事業名	事業内容	計画人数等	実施日等	実施場所
財団広報	財団広報	財団ホームページ、財団広報誌等により財団及び事業内容等を紹介する。また、ふるさと区民まつり等のイベント会場での事業PRなどの広報活動を行う。	―	通年	―
	せたがや文化・スポーツ情報ガイドの発行	財団各部の事業内容等を広く区民等に周知するため、毎月25日にタブロイド版の情報紙を発行、新聞（6紙）折り込みも実施する。	毎月 277,000部	通年	―
文化芸術の拠点施設の管理運営	世田谷文化生活情報センターの施設維持管理［指定管理］	世田谷文化生活情報センター施設維持管理、主劇場、小劇場、生活工房セミナールーム、ワークショップルーム等の貸出を行う。	―	通年	世田谷文化生活情報センター
	世田谷美術館及び分館の施設維持管理［指定管理］	世田谷美術館及び3分館（向井潤吉アトリエ館、清川泰次記念ギャラリー、宮本三郎記念美術館）の施設維持管理、区民ギャラリー及び講堂の貸出を行う。	―	通年	世田谷美術館
	世田谷文学館の施設維持管理［指定管理］	世田谷文学館の施設維持管理、講義室の貸出を行う。	―	通年	世田谷文学館
物品販売事業	パブリックシアター関連商品の販売	世田谷パブリックシアターとシアタートラムで上演された公演パンフレットや映像化したDVDなどの関連商品を、劇場やオンラインショップにて販売する。	―	通年	世田谷文化生活情報センター
	美術館ミュージアムショップの運営	美術館・分館のミュージアムショップを運営する。収蔵作品を元にしたオリジナルグッズ・絵葉書等の開発・制作及び販売、また企画展開催時における関連グッズ・絵葉書・書籍等の販売を行う。	―	通年	世田谷美術館及び分館
	文学館ミュージアムショップの運営	ミュージアムショップを運営し、展覧会に関連した書籍や絵はがき等のグッズの販売を行う。	―	通年	世田谷文学館
飲食物提供事業	パブリックシアターのロビーカフェの運営	世田谷パブリックシアターの3Fロビーのカフェを委託により運営する。	10,000人	通年	世田谷文化生活情報センター
	美術館のレストランの運営	世田谷美術館内のレストラン「ル・ジャルダン」を委託により運営する。	35,000人	通年	世田谷美術館
	美術館のカフェの運営	世田谷美術館内のカフェ「セタビカフェ」を委託により運営する。	35,000人	通年	世田谷美術館